



令和8・9年度 研究主題

幼児が主体的に遊ぶための環境とは
～やってみたいと心を動かして遊ぶ姿から～

研究園 三軒家西 粉浜 住吉 墨江 玉出 天下茶屋 五条 真田山 味原
大江 生魂 鶴橋 常盤 長吉 長吉第二 瓜破北 加美北

第3回研究部会

令和8年7月15日（水）場所 大阪市総合教育センター

演題 子どもの“やってみたい”がつながる、広がる、深まる環境とは
～幼児理解から考える～

講師 大阪大谷大学 特任教授

○幼児教育における学びの過程

【主体的、対話的で深い学びのプロセス】

- ・「主体的、対話的で深い学び」は、幼稚園だけで完結するものではなく、幼稚園から小学校、中学校等と連続し一貫して育まれていくものである。

○主体的な学びのプロセス

- ・ 安定感、安心感
- ・ 興味や関心
- ・ 自発性
- ・ 自己肯定感
- ・ 好奇心、探求心
- ・ 持続性、粘り強さ
- ・ 必要感
- ・ 振り返り、見通し

○対話的な学びのプロセス

- ・ 依存と自立、信頼関係
- ・ 自己表現、相手への感情、意識
- ・ 思いの伝え合い、イメージの共有、共感、刺激のし合い
- ・ 葛藤、内省、折り合い
- ・ 対話や話し合い、目的の共有協力

○深い学びのプロセス

- ・ 感覚、感触、感動
- ・ 試行錯誤、気づき発見の喜び
- ・ 予想、予測、比較、分類、確認
- ・ 規則性、法則性、関連性との発見と活用

これらの力を育むための過程が幼児教育において実現できているか。「できる、できない」という結果だけで判断するのではなく、「関わろうとする」「取り組もうとする」などのその子らしい学びのプロセスを捉えていくことが大切である。子どもの姿の捉え方は、教師によって違う見方があるため、それぞれの見方を知り、共有していくことが幼児理解につながっていく。

○幼児理解に基づいた評価について考える

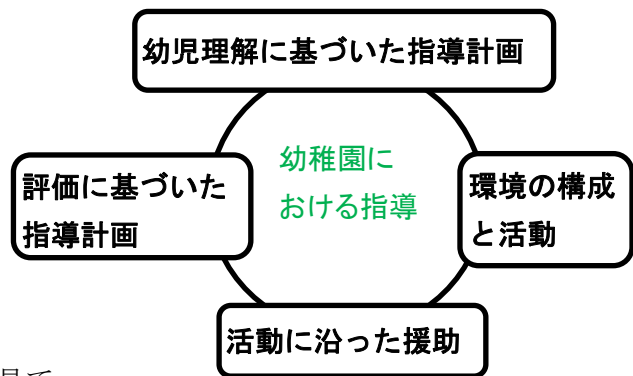
【発達の実情を的確に理解し、一人一人の個性・発達の課題を捉える】

- ・子どもが何に楽しさを感じているのかどこでつまづいているのかを捉えることが大切である。
- ・年齢だけで判断するのではなく、個性や発達の課題を踏まえて理解することが重要である。

【評価を活かして指導を改善】

- ・幼児理解に基づいて、指導計画を立て、環境を構成し、活動に沿った援助を行い、その結果として見られた子どもの姿を評価する。そして、評価に基づいた指導計画を見直すという循環を繰り返している。

- ・幼児理解とは、教師一人一人が子どもの姿を見て感じた自分なりの捉え方でよい。他の教師と子どもの姿を共有することで、様々な視点が加わり、客観的で深い理解へとつながる。教師それぞれの主観を共有し合うことが、「主観的に基づく客観性」になる。



【評価の実施にあたって】

- ・評価を実施する際には、子どもの姿だけでなく、教師の指導の過程を振り返ることが重要である。遊びの中で子どもがどのような姿を見せたのか、どのように成長・変容していったのか、その姿が生まれた状況やそれまでの過程はどのようなものであったかを振り返ることが大事である。
- ・一人一人のよさや可能性を見つめ、自らの指導は適切であったかを振り返り、次の指導へと生かしていくことが大切である。
- ・指導の過程を振り返るときには、教師との関わりや友達との関わりなど、人との関係に目を向けがちであるが、人との関わりだけで子どもの育ちを捉えるのではなく、多様な見方から子どもの姿を捉えることが大切である。



○実践から考える

- ・子どもたちは普段の生活の中で様々なことを学んでいる。その伸びようとしている力を教師が妨げてはならない。
- ・日常の中でいろいろなことに心を動かしている子どもたちの姿を教師が自分なりに捉え、他の教師と共有することで、もっと沢山の視点から子どもたちを理解していくことができるかもしれないと考える。

○心を動かして夢中になって遊ぶとは

- ・子どもが心を動かし夢中になって遊ぶためには、教師自身も子どもとともに遊びを一緒に楽しむ姿勢が大切である。子どもたちが何に楽しさや面白さを感じているかを理解し、関わるのが大事である。
- ・子どもたちは自分の力とかけ離れた課題ではなく、手が届きそうな目標が近くにあるとわくわくして取り組むことができる。教師は常に子どもの心に寄り添っていくことを忘れてはならない。さらに子どもが「どうしてうまくいかないの？」と考えたり、試行錯誤したりする経験も大事である。教師は子どもの意見を否定するのではなく、「それいいかも」と柔軟に受け止め自分で挑戦しようとする姿を見守りながら、支えていくことが大切である。

○幼児を深く理解するために

- ・一人一人のよさや可能性に目を向け、ありのままの姿を多面的に受け止めることが大切である。
- ・子どもが何に面白さを感じ、遊びや活動に取り組んでいるのかを捉えることが、幼児を深く理解することにつながっている。
- ・教師の言動や姿勢、その全てが指導そのものである。教師が一人で子どもを理解するのではなく教員同士が互いを尊重し、チームとして取り組む姿勢が大切である。



○感想・学んだこと

講話では、幼児理解や幼児の実態把握の重要性を改めて実感した。子どもたちが何に興味や関心を持ち、どのようなことに面白さを感じているのかをそれぞれの教師が丁寧に捉え、共有していくこと、多面的に理解し組織として子どもたちを支えていくことの大切さを学んだ。

また日々、子どもの成長・変容、それまでの過程や自身の指導を振り返り、次の指導に生かしていくことの重要性を学ぶことができた。

教師自身が幼児と共に遊びを楽しみ、やってみたいと心を動かしている姿を丁寧に見取りながら、幼児が主体的に遊ぶための環境を工夫していけるよう、今回学んだことを日々の保育や研究に生かしていきたい。